

高良鍍金 良品レスポンス最優先 品質向上へIT・DX駆使

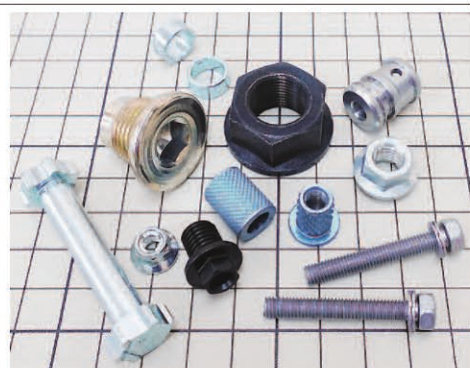
高良鍍金(大阪府堺市、高良鍍社長)は今年創業74期を迎えた。10年前から防食めっきのフラッグシップである

「亜鉛高ニッケル合金めっき」(ハイニッケル合金めっき)を手掛け、現在はブラック、ブルー、ステンレス色調となるシルバーの三価クロムコート処理にも対応している。

ハイニッケル合金めっきは亜鉛めっきと異なり、ハイスベックな高耐食性を有し、亜鉛めっき3価クロムコートの10倍以上の耐食性を発揮する。耐食性のみならず耐熱性にも優れ、水素脆化が殆どなく(2024年最新

のJIS規格に掲載)、さらにはウイスキーの発酵も兼ねて近年発見され、学会でも発表されている。

このほか、亜鉛めっきとハイニッケル合金めっきの中間に値する防錆力の「第3世代のトップコート処理」も手掛ける。防錆力向上や摩擦係数低減など安定性を有し、自



加工製品の数々

動車メーカーの未来の標準的仕様ともいわれる水系トップコートである。亜鉛めっき(3価クロムコート処理品)の上このトップコート処理を施せば、3倍以上耐食性が向上。コスト面では、ハイニッケル合金めっきの半分程度に抑えられる。

さらにこれらのトップコートは、めっきを施さなくとも鉄素材やステンレス素材に直接塗布することで摩擦係数をコントロールでき、二次加工時の金型摩耗低減などにも役立っている。同社は常に「他社にはないもの十

αを意識しながら、製品開発を進めている。環境面では、同社が手掛ける表面処理全てがROHS、REACH等の環境規制に完全対応。グローバル展開する商品にも安心して適用できる。

亜鉛3価クロムコートのイロも染料・顔料を使わない化成皮膜処理のみで行っている。自動車メーカーは摩擦係数の要求が高いが、摩擦抵抗をコントロールしたいといった要望にもいち早く対応。

これまで経験値をデータベース化することから、製品投入量に合わせた電気量を自動計算する機能を追加したものの(積算電流計を超越したシステム)。

新システムと自動記録システム
「弊社は新人育成より、良品レスポンスを最優先にしている。

で、新人や日本語力の浅い外国人でも入社直後から熟練スタッフ並みの品質に仕上げられるのが特長。すでに、めっき最終工程まで詳細データを自動記録するシステムを導入していたが、新システムではそれら既存データを基に、製品コードを入力するだけで工程のみならず、製品投入量に合わせた電気量を自動計算する機能を追加したものの(積算電流計を超越したシステム)。

高良鍍社長は、「弊社は新人育成より、良品レスポンスを最優先にしている。めっき業界問わず、モノづくりの品質向上という点では、今後はIT/DX化が標準化していくだろう。数年以内には工程だけでなく、設計から見積りまで、製造業全般にAIが浸透するも時間の問題だと予想する。同社は今後も、ハイニッケル合金めっきのシルバー、亜鉛3価クロムコートのイエローを主軸に、その中間の防錆力の第3世代のトップコート処理も含めた3つの表面処理で攻勢をかける。少教精鋭でフットワークがよい社風を生かし、小ロット多品種をモットーに高品質の表面処理を心掛けていく。

高良鍍金株式会社 TAKARA PLATING Co., Ltd.

亜鉛高ニッケル合金めっき

通称：ハイニッケル合金 ANT 派フラッグシップのジンケート浴
防錆めっき界で最高峰の耐熱、耐食性のみならず「ウイスキー対策」や「ペーキング不要」など、様々な高機能満載の亜鉛高ニッケル合金めっき！
弊社ではブルー・ブラック・シルバーの3色展開。



第3世代トップコート

耐食性向上・摩擦係数コントロール・水系トップコート

亜鉛系防錆めっき後のトップコート。
第3世代では、防錆力UPに加え摩擦係数の調整が可能。
その他、電蝕防止、金型のダメージ軽減などに効果的！



防食めっきで日本のものづくりを創造する

高良鍍金株式会社

TEL 072-232-3265
TEL 072-233-7570